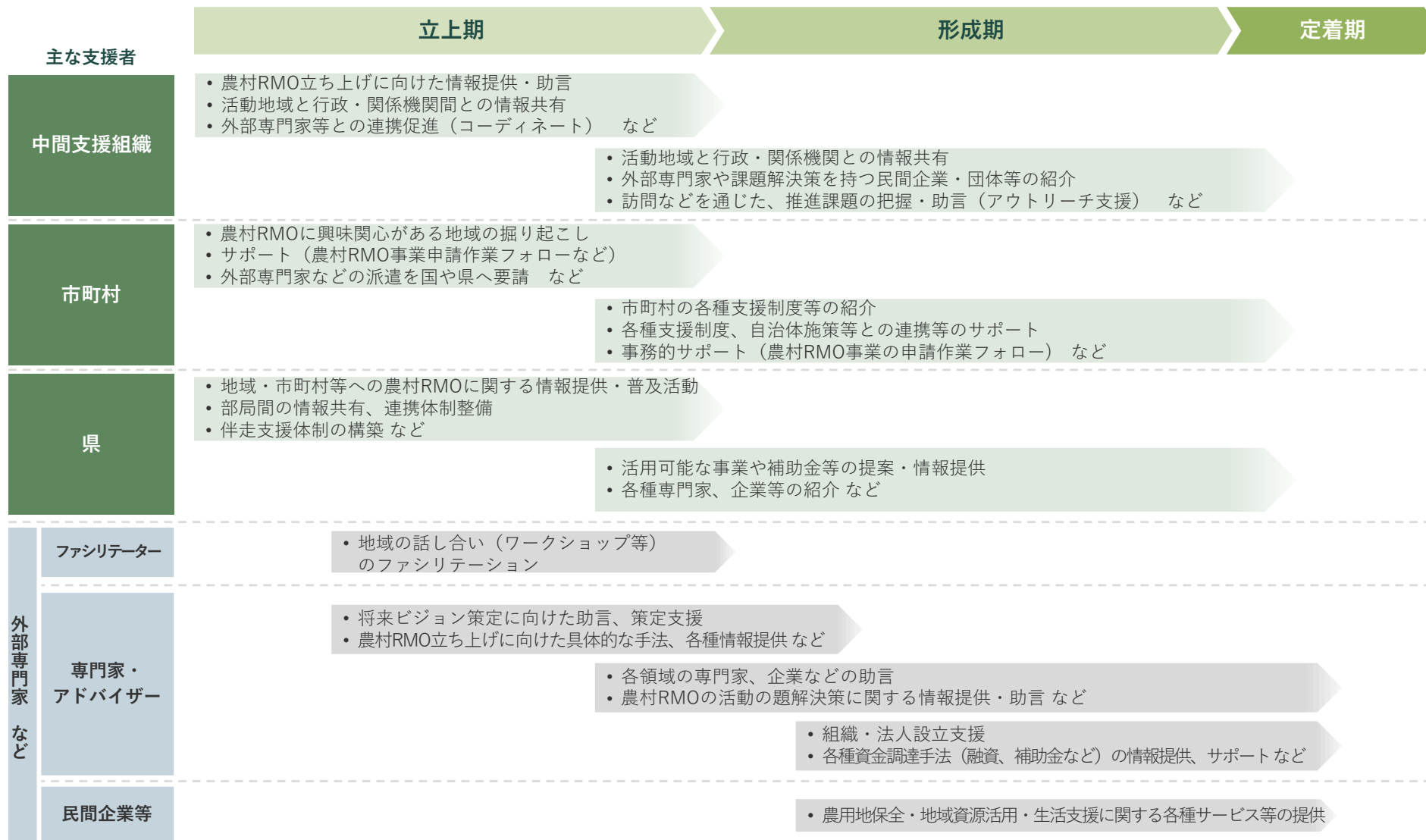


農村RMOの伴走支援は、段階ごとに、中間支援組織、市町村、県、外部専門家、民間企業など多様な支援者が役割を分担しながら進めます。

支援者別の支援イメージ



➡ 福島県内の農村RMO活動事例や具体的な支援のポイントは、「農村RMO伴走支援の手引書」に掲載していますのでご参照ください。

活動段階別の支援者の主な役割

	支援者の役割イメージ	主な支援例
立上期	立上期における支援者の主な役割は、地域住民が主体的に関わるための土台づくりをサポートすることです。地域の思いや課題を共有できる環境づくり（場づくりのサポート）や、活動の核となる人材や既存組織との関係性を把握・整理（コーディネート）することを求められることが多くあります。また、必要に応じて地域内の合意形成を後押しする支援（ファシリテーション・助言）が求められる場合もあります。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 他地域事例（立上期）の紹介や情報共有 ✓ 住民や地域団体等との話し合いを企画・運営支援 ✓ 話し合いの場のファシリテーション（意見交換を促進） ✓ 自治体・関係機関への相談調整・同行（外部との連携強化）
形成期	形成期（初期） 形成期の初期は、地域住民が共通の将来像「将来ビジョン」を描くためのプロセスを支えることが支援者の主な役割となります。住民同士の対話環境の整備や、ビジョン策定に向けた話し合いの設計やファシリテーションが必要となるケースが多くあります。地域内で対応できないものについては、必要に応じて、外部ファシリテーターや専門家の活用（招へい）を調整する支援も行います。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 他地域事例（形成期）の情報共有 ✓ 将来ビジョン策定の支援（住民ワークショップ企画・ファシリテーション） ✓ 活用可能な支援制度の情報提供、申請支援（ビジョン策定に必要な活動費の確保） ✓ 自治体、外部専門家、民間企業など外部機関との連携調整
	形成期（将来ビジョン策定後） 将来ビジョン策定後における支援者の主な役割は、将来ビジョンに基づく具体的な活動を試行するためのサポートと、地域内外の連携強化を支えることです。農村RMOの活動推進上の課題などを把握し、必要に応じて、活動の事務的なサポートや技術的な助言、外部専門家や企業との連携促進などを行います。また、活動に必要な財源確保や協力者の拡大など、実行可能性を高める支援も求められることがあります。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 支援制度の情報収集・紹介、申請支援（活動の実証・立ち上げに必要） ✓ 外部専門家・企業とのマッチング、橋渡し、連携調整 ✓ 活動推進に必要な事務局支援（事務作業の補助、進行管理の支援）
定着期	定着期では、活動の成果を踏まえた事業化や持続的な運営基盤の整備を後押しすることが支援者の役割となります。財源確保、担い手育成、組織運営の改善、外部連携の強化など、活動の持続性を高めるための多面的な支援が必要となる場合があります。形成期だけでなく、定着期においても外部連携や財源確保の支援が引き続き重要となる場合があります。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 活動成果の整理と次年度に向けた改善点の抽出 ✓ 収益事業化に向けた計画検討支援（採算性の整理など） ✓ 活動財源確保に向けた制度活用の情報提供、外部専門家・企業とのマッチング、橋渡し、連携調整